

令和元年度 長野県須坂高等学校 学校評価表 目標

		成果と課題	評価	改善策・向上策
学校 目標	1 基本的な生活習慣を確立し、豊かな知識・表現力、創造的な思考力・課題解決能力、主体性を身につけた生徒の育成を目指す。	遅刻指導(年2回)が、少数ではあるが特定の生徒の遅刻の多さは改善されなかった。交通安全街頭指導については、全体で年2回実施した。1年生に対しては交通安全への意識を高めるため、自動車学校に交通安全指導を実施したが、交通事故件数が15件と大幅に増加してしまった。また、1年生はスマホを始めて持つ生徒が多いので、情報モラルの育成を期して4月にインターネット安全講演会を実施した。今年度はインターネット関係のトラブルの報告は無かった。授業の方法の工夫や探究の導入など生徒の育成に努めている。 生徒会活動では、りんどう祭、クラスマッチ、委員会活動等々を通じ、より主体的に活動することができた。	B	○遅刻については、朝のSHRでの指導を含め、規則正しい学校生活を習慣づけさせたい。また、日課におけるSHRの位置を検討する必要がある。 ○インターネットに関しては、引き続き使用方法について注意を喚起して行きたい。 ○交通安全について、特に自転車での登下校中に不注意によって自動車との交通事故が多いことを意識させたい。また、交通法規に関して学習する機会を設け、ルールを守ることの意義について考えさせたい。 ICTの授業への活用を勧めるために、環境整備や具体的な実践工夫が必要となる。
	2 保護者、地域の方々の期待に応えうる、健康でたくましい有為な若者の育成を目指す。	上位目標を意識して、高校生活のマネージメントを各自ができるように、部活動と課外学習や生徒会活動の方向付けをした。	B	月曜は完全に部活動禁止が定着し、探究活動や生徒による自治活動が活発化してきた。さらに職員の働き方改革も相俟ってアカデミックで大学のような学園を目指す。
	3 学年、学級、教科担任、部・委員会顧問、各係等が相互に連絡・連携をとり、より充実した指導を目指す。	生徒の支援委員会など外部機関とも連携しながら、必要に応じて年に何度も関係者で情報共有と支援会議を開催した。	A	学年、担任、教科と各係が外部機関と連携をとることで、生徒を多面的に支援し、進級卒業に向けて成果を上げることができた。
	4 協働的な人間関係を築き、自他の生命と尊厳を守り、いじめのない人権感覚あふれる学校づくりを目指す。	特別支援教育コーディネーターを中心にスクールカウンセラーと連携し、特別な事情のある生徒の支援態勢を整えた。また、クラス担任がクラス生徒への理解を深めることで実効性のある支援につなげられるよう、アセス(学校環境適応感尺度)を6月・11月に実施した。1学年は年度当初にいじめ予防策として、友だちづくりのためのワークショップを行った。	A	○特別な事情のある生徒への対応において、個人情報に配慮した上での職員間の情報の共有をさらに図っていく。 ○アセス導入初年度としてのまとめを行い、来年度以降の継続的発展を期したい。 ○引き続き、いじめにつながっていくような事案に対しても慎重に対応していく。
	5 信州グローバルハイスクール研究指定校として、これからの須坂高校のあり方とともに、地域のよりよい学びの場のあり方を大局観を持って探究する。	「未来の学校」研究指定校の「信州に根ざしたグローバルな学びを推進する高校」としてSAH(スーパーアカデミックハイスクール)という須坂高校の将来像を設定し、概念図をつくり、目指す方向性を示すことができた。また、2年生の授業として位置づけられた「総合的な探究の時間」や哲学対話など、すでに動き始めたものもあり、来年度以降への助走を始めることができている。	A	概念図に描かれた学校像を学校全体で共有し、ダイナミックに生徒が豊かな学びを実現できるような学校をつくっていくことが課題である。
I 自律的な生活習慣の確立を図る。	『学習の手引き』を予定通り作成することができた。家庭学習の習慣づけの方策の検討が今後必要である。	B	家庭学習の動機づけ、習慣づけに向けて取り組まなければならない。	

中 長 期 的 目 標	II 学習支援の環境を整備する。	「総合的な探究の時間」にむけて、職員研修を行い、問題意識を共有して準備を進めることができた。	A	「総合的な探究の時間」を基軸として、より主体的に対話的な、深い学びが実践できるようにしていきたい。
	III 生徒の能力の伸長と学力の向上を図り、希望進路の実現に向けた指導をする。	入試制度の多様化に対応すべく、大学での講義や就労体験など早めから取り組むことができ、志望理由の明確化が計れた。	A	質の高い刺激が与えられる企画をし、学ぶ意欲を高め、興味関心の幅を広げ、生徒主体でアカデミックな学び舎を目指す。
	IV 全教職員の連携がより円滑に機能するような学校運営を行う。	日々の活動、諸行事について、教務係が中心となり企画・調整し、円滑に運営していくことができた。	A	係・学年等の各部署と、密な連絡を取り合い、より円滑な運営を心がける。
今 年 度 の 重 点 目 標	i 生徒の学習意欲向上と学習習慣定着のため、日々の授業の改善と充実に努める。	自習室のあり方について検討を行った。また、ICTの利活用など、多面的な授業の工夫が行われた。	A	主体的な学習や創造的な思考力を身に付けるために、教員が協同して授業研究をしていく必要がある。
	ii 生徒会の委員会、部活動を通して、生徒の自律を促し活気ある学校づくりに努める。	部室の管理規定と配置を見直すとともに、一斉清掃を行うことができた。クラブ活動のあり方を生徒たちで自主的に考え提案するなど、生徒の自治的な活動が広がってきている。執行会を中心に、生徒は主体的に活動することができた。また、組織の中で協働する意識と態度が向上した。	A	執行委員会が委員会活動をまとめ推進できる態勢をつくりたい。スポーツ委員会と文化委員会が各クラブを統括する内容を検討したい。今後は、更に計画的にじっくりと手順を踏んで活動を実施していけるよう見守りたい。
	iii 教育課程の更なる充実を目指し研究と改善に努める。	新教育課程案を提示しながら、本校の将来像にからめて夢を描き、地域の求める人材育成に貢献していくための検討を始めたい。	B	新学習指導要領に基づく新たな教育課程編成に向けて、新年度で全職員に周知しながら、具体的な検討を始める。
	iv 生徒の学力向上のために、学校内各分掌及び様々な教育機関との連携を進める。	大学との連携、予備校との連携で進学ノウハウを取り入れ効果成果を得ている	A	進路支援・学習支援、のみならず授業内容の精選工夫など生徒の興味を引き出すような工夫、研修、研究に努力する
	v 保護者及び地域にむけて情報発信するとともに、さらに理解・信頼される学校づくりをする。	教務係とPTA係が連携しながら保護者や地域に向けて、必要な情報や案内を発信し、またそれをフィードバックすることもできた。	A	来年度もオクレンジャーやホームページ等を活用しながら、学校の様子を発信し、信頼が得られる学校づくりをする。
	vi 学校生活全般をととして、お互いの存在を尊重しあえる生徒を育て、職員自身も人権感覚をより高める。	外国籍の方に対する理解というテーマで平和人権講演会を全校で行うことができた。終了後に受け付けた個別の質問では、多くの生徒が集まった。全校平和人権講演会を行い異文化との接点を持つことができた。HR、生徒会、部活動、文化祭などの行事を通して仲間作りに努めることができた。	A	来年度も全校で講演会を企画すると同時に、日常生活における対話の中で、生徒や職員の人権感覚をより高めていけるように努力する。日常生活の様々な場面において命の尊さや人権の意識を喚起していく必要がある。